

No. 70

2018.12

世田谷文学館 ニュース

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

NEWS

館長の作家対談
筒井康隆（小説家）



ヒグチユウコ 《Circus》 2018年

収蔵品のご紹介

新高恵子寄贈資料 —「ボクシングは、血と涙のブルースだ」寺山修司—

IPM 活動報告 ミュージアムショップ 紹介 職場体験活動報告

館長の作家対談

ゲスト

筒井康隆
(小説家)

聞き手

菅野昭正
(世田谷文学館館長)

筒井康隆(つつい・やすたか)

小説家。1934年大阪市生まれ。1960年SF同人誌「NULL」を発刊。江戸川乱歩に認められ、同年、乱歩が編集するミステリー雑誌「宝石」に掲載された『お助け』で作家デビューし、星新一、小松左京とともに「SF御三家」と呼ばれ人気を博す。'81年『虚人たち』で泉鏡花賞、'87年『夢の木板分岐点』で谷崎潤一郎賞、'89年『ヨッパ谷への降下』で川端康成文学賞、'92年『朝のガスパール』で日本SF大賞、'97年仏政府よりシュバリエ賞、2000年『わたしのグランパ』で読売文学賞、'10年菊池寛賞、'17年『モノダの領域』で毎日芸術賞を受賞。'02年に紫綬褒章を受章。他の主な作品に『時をかける少女』『家族八景』『大いなる助走』『虚航船団』『残像に口紅を』『文学部唯野教授』『聖痕』など。小説などの執筆活動のほか、舞台・テレビ出演などでも幅広く活躍している。2018年10月6日から12月9日まで、世田谷文学館で「筒井康隆展」が開催されている。

創意溢れる作品の数々で日本のSFを牽引し、現在では純文学とエンターテインメント小説の境界を超越した日本文学界を代表する作家として小説や劇作を発表され、さらに俳優としても旺盛な活躍を続けておられる筒井康隆氏をお訪ねし、「筒井康隆展」開催直前に当館館長がお話を伺いました。

映画の面白さを小説に移し替えて 読者を笑い転げさせた

菅野▼対談を大変楽しみにしてお伺いしました。筒井さんの作家歴も随分長くなりましたね。同人雑誌で江戸川乱歩に発見された時はおいくつでしたか。

筒井▼24、5歳だったと思います。60年近く前です。乱歩さんに見出されたのは良かったのですが、けれども、それからなかなかすぐには書けませんでした。4、5年くらい、だいぶ苦しい時期がありました。

菅野▼学生の頃から、演劇にも深い関心をお持ちだったそうですね。若い頃は演劇の他にもいろいろ興味がありましたかと思いますが、演劇と文学とを両立させようとお考えでいらしたのですか。

筒井▼そうですね。喜劇と名の付くものはほとんど見たと、そこまで豪語はしませんが、とても好きでした。

菅野▼小説を書きになってから、それが養分になっっているような感じがしますか。

筒井▼随分役に立っています。つまり、最初はこの面白さを文章で何とか表現したいという気持ちがあつて。僕の初期の作品はいわゆるドタバタ、スラップスティックSFと、皆から言われました。先ほど言われたように、映画の面白さを小説に移し替えようとするのは本来無理ですが、それを何とかやりたかった。あの面白さを読者に、読者を笑い転げさせたい、という気持ちがあつて。そうしますと、ギャグというのは余分な説明、情景描写や心理描写なんぞやっていると、スピード感がなくなつて笑いに結びつかないのです。ここをどうすれば端的に情景描写できるか、このシーンが再現できるかと、余計なものを取っ払って取っ払ってという訓練をしました。ヘミングウェイや、ミステリー作家のダシール・メット、他にもいますが、そういう人たちの文章をお手本にしました。

SFから出発した「多能作家」

菅野▼映画の話が続きましたので、このあたりで小説のお話にさせていただきます。筒井さんがデビューなさったころ、SF作家という言われ方をされましたけど、ご自分で自覚的にSF作家であるとお考えになったのか、それとも外側から貼られているレッテルと感じていらしたのか、どつちでしょうか。というの、うまく言えませんが、僕には筒井さんの作品はすぐにはSFとは思えなかったのです。偏狭かもしれませんが、SFというとベスターの『Tiger! Tiger!』のような種類のもの、宇宙空間を舞台にし



筒井▼演劇というより、本当は映画のほうが好きだったのですが、映画は自分で作れるものではありませんから、しかたなく演劇をやった、みたいなものです。実社会の社会生活をあまりしていないで小説や本ばかり読んで、それを基に小説を書いているという人を「ブッキッシュな作家」という言い方をしますが、僕の場合、本も勿論読みましたけれど、「ブッキッシュ」じゃなくて映画です。映画を基にして書いた作家というものを英語で何と言うのか知らないんですけど。菅野さんは芸誌に、フランス映画とそれの基になっているフランス文学とをセットにして論じてらっしゃいますよね。僕は、あれは素晴らしいことだと思います。

菅野▼文学と映画で表現できることは、同じ主題を扱ってもどうしても差ができますよね。焦点の当て方も違う。そういうことを少し考えてみました。もう一つ、20世紀には色々厄介な問題がありました。内乱があり、戦争があり、革命があつた。そういう時代に作家が何をどう捉えようとしたかということ、全体的に俯瞰できなくとも、断片的にならば何とかなりそうだと思うので、始めた仕事です。

筒井▼それはなさつておかれたほうが良いです。映画にしる、小説にしる。一部分は残るかも知れ

ませんが、大部分は消えていきますよね。その時に作った連中が何を考えてやっていたのかということが、後に残らない。ですから、ものすごく貴重だと思います。

菅野▼筒井さんは、どのような映画がお好きでしたか？

筒井▼戦後すぐにはまだ外国映画が入ってこなかったの、戦前の古い古いものを見ました。私が好きな映画は、いわゆる名作映画とかではなく、プログラムピクチャーです。昔のプログラムピクチャーにはシナリオも何もかも厳選された、非常にピシッとまとまっていたものが多いと思います。僕はそれよりさらに下の、いわゆるドタバタ喜劇とかスラップスティック・コメディーなんかになんかだいぶ影響されていますね。

菅野▼スラップスティック・コメディーはアメリカ映画ですね。

ムには乗つてこない時代ですか？

筒井▼一応ジャーナリズムに乗っていたのは、ショートショートの新刊だけでした。ショートショートもSFと見られていたわけですが、本当はそうではないですけれどね。

菅野▼小松左京はまだ出てきてない？

筒井▼まだです。小松左京は私とほぼ同じ頃に出てきて、彼の方はぐつと一挙に出世しましたが、私はまだそれから4、5年、駄目でした。それでも自分でぼつぼつやっていました。長篇なんかとても自分に書けるとは思いませんでした。あの頃、サキ、ジョン・コリア、ロアルド・ダール、フレドリック・ブラウンのような、すごく気の利いた短篇を書く作家がいました。ああいう風な短いものを、年に2、3回書いて有名になれたらいいなと、思っていました。ところが、江戸川乱歩邸に何つたら、乱歩さんが長篇を書かなきゃ駄目だと思つて、やはり長篇を書かなければ駄目かと思ひ書きました。何しろ初めての長篇ですし、一人称と三人称の区別もよく分かっていなくて、主観・客観、そういう文体も滅茶苦茶だったみたいで

す。やはり没にされて、それからしばらくの間、低迷していました。

菅野▼筒井さんのショートショートで、『笑うな』という作品がありましたね。僕は当時、星新一を少し読んでいて、とにかく気が利いていて面白いけれど、うまく言えませんが、どうも現実感がない。筒井さんのショートショートも時々拝見していて、題材はそれこそシュレアリスム風で、幻想的であるし奇想天外だけれども、底辺に一種の現実性があると感じていました。それから以降、筒井さんの小説を拝見してきて、実に色々多岐な試みをなさることに目を瞠る思いをして

『虚航船団』新潮社 1984年
『虚航船団』冒頭原稿

『夢の木板分岐点』新潮社 1987年



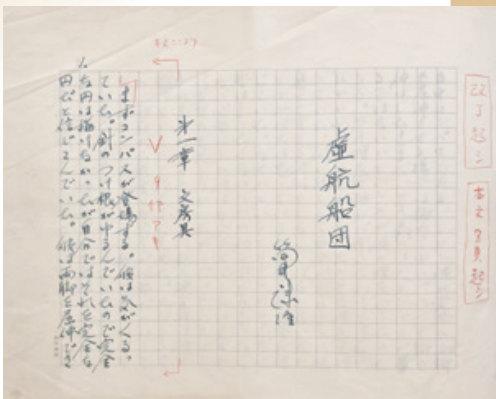
『文学部唯野教授』岩波書店 1990年



『モノダの領域』新潮社 2015年



『聖痕』新潮社 2013年



いました。常識とは変わった能力があることを異能とか言いますが、筒井さんは異能であるとともに、「多能作家」であり、領域をだんだん広げてきた。これが日本の作家にしては大変珍しいと、僕は思っています。例えば、本当にびつくり仰天しましたが、『虚航船団』で文房具が人格化、personificationするというか、文房具が嫉妬したり恋愛したりしますね。それと同時に、侵略とか戦争とか醜い争いを扱ったスケールの大きさがあつた。そんな二つの要素を共存させたところがすごいですね。それから、あの小説ではパラグラフが長いことに驚きました。パラグラフが長いことは、ある一つの思考が持続的に続いていくということです。僕の知る範囲では、パラグラフが一番長いのはブルーストです。筒井さんはそれと匹敵するほど長い。日本語とフランス語では言葉の体系が違いますから同一には論じられませんが、あの書き方は、意識的におやりになつたことですか？ 他の作品も、概して筒井さんの作品は、今の日本の小説のなかではパラグラフが際立つて長いように思います。

筒井▼それは後期になつてからだと思います。最初の頃のいわゆるドタバタ、スラップスティックの時代は短いセンテンスでぼつりぼつり、ハードボイルド的なタッチでした。「海」とか「新潮」とか純文学系統の雑誌からの依頼で書き始めるようになってから、だんだんと長くなり始めました。

菅野▼「虚航船団」は書き下ろしですか。

筒井▼書き下ろしです。新潮社から頼まれて書きました。作家になつてだいぶ経つて、純文学方面である程度認められてからです。

菅野▼「虚航船団」をお書きになった後、達成感というと俗な言い方になりますが、やったぞ！というような思ひはありましたか。

筒井▼ありました。ありましたし、小松左京は映画化したいから映画権をよこせ、なんて言つて手を出されたことがあります。その反面、ぼろくそに言う人がいました。他の人もそれに「右へ倣え」をして貶し始めて、少し落ち込んだりもしましたが、今はまた再評価されています。不思議な



筒井▼先ほど菅野さんが言われたように、私の場合は面白おかしくするために、現実の笑いを取り入れています。やはり、リアリティーがないと笑わない。そういう訓練があったわけです。人をびつくりさせたり笑わせたりするために、あの手の手といろんな手を使います。そうすると読者から、これは前に使ったアイデアと同じではないかという指摘が来て、同じアイデアでは書けなくなつちやう。よし、じゃあ次はどうやって脅かしてやろうかと。一時期「びつくりおじさん」なんていうあだ名がファンの間であったくらい、とにかくびつくりさせると。『虚航船団』はその最たるものですね。これ以上のびつくり仰天はないだろうという。

菅野▼そうですね。いきなりコンパスが登場し、彼は気がくるつていたと、紹介されるのですから。それこそ「びつくり読者」になった記憶があります（笑）。筒井さんの長篇ですぐ頭に浮かぶのは『虚航船団』、それから『文学部唯野教授』『夢の木坂分岐点』、最近になりますけど『聖痕』『モナドの領域』。長篇は大変面白く、かつ教えられるところがたくさんあつてほとんど読ませていただきましたけど、『文学部唯野教授』のときは、新規の文学用語について、色々勉強なさつたわけですか？

筒井▼もちろん。

菅野▼あれはヌーヴェル・クリティックの頃ですね。そういえば、昔「只野凡児」という漫画のキャラクターがありましたね。あの名前と関連があるのですか。あれは僕らが子どものころの人気漫画でした。

筒井▼「只」の字は違いますけれど、よくご存じで、あの漫画を（笑）。そうです、意識がありました。只野凡児の只野とダブるといかんから、字を変えようというようなことを考えたことはあります。

菅野▼あの頃は、ヌーヴェルクリティック系の記号論や、物語論の翻訳がありましたか？

筒井▼随分いろいろ出ていました。ソシユールも出ていましたし。一応全部、全部というのはとても読めないけれども大体は読みました。

菅野▼よく勉強なさつたというだけでなく、筒井

さん。そういう中で、筒井さんは時代を通して社会全体、さらに宇宙全体を見通してまともに向かい合っています。さりげなくそれを出しておられるけど、『モナドの領域』のGOD、GODと名づけるのは非常に大胆不敵と言え、大胆不敵、随分お考えになつたと思いますが、宗教的な神を超えたもので、宇宙の統一を考える存在と僕は読ませていただいたのです。当たっているかどうか分かりませんが。

筒井▼そのとおりです。

菅野▼混沌として訳の分らない、我々の今生きている世界を、しっかりと全体的に見ている存在を出したことが、小説の本来の正統的なありかたに即

さん独特のユーモアの能力が動員されていますね。言い忘れていましたけど、いつも筒井さんの作品の根底にあるのは風刺だと、僕は思っています。風刺というのは一種の鋭利な批評です。筒井さんはいろんな側面から現代社会の病巣などを見た上で、野暮に批評するのではなく色々な角度から風刺的に批評しながら、且つそこに笑いを織り込んでいくという作風だと勝手に思っています。いつも同じ視覚ではなく、千変万化するところから見えていくのが、多能である所以です。『文学部唯野教授』の場合、僕も学会の端くれにいますので、そういう意味でも非常に面白く読みました。大学のいわゆる教授会なるものはおかしいことがいっぱいあるわけ（笑）。

筒井▼そうですね。ちよつと信じられないです、話を聞くと（笑）。僕は、いわゆるポストモダンの批評用語を批評家がやたらと使うのをギヤグに、べらべら喋る人物を出したかったわけですから僕的笑いというのは、どちらかというと悪意のある笑い、攻撃的な笑いですね。

菅野▼あれこそ風刺ですね。全然関係もないのに、自分のことを書かれたと思い込んだ人もいたでしょうけど（笑）。

本格的長篇、瀟洒な短篇

菅野▼『夢の木坂分岐点』は一種のサイコドラマというか、多重人格などが出てきますね。面白いのは、名前が変わると人格が変わるという仕掛けです。前々からお考えになつていたアイデアですか。サイコパスとか、異常心理学の領域が主になつているわけですが。

筒井▼心理学の本などをたくさん読んでいましたから、当然考えていました。

菅野▼普通のサラリーマンが、現実世界にいなから虚構の人生を送っている。そういう二重三重に絡み合つた感じがよく出ていたと思います。

筒井▼現実の世界のようでありながら、あり得たかもしれない現実。そういった世界の漂流記みたいなものでしょうか。オデッセーですね。

菅野▼こういふ言い方は失礼かもしれないけど、筒井さんがついにここまで上り詰めたかという印象でした。

筒井▼（笑）

菅野▼最近の短篇も素晴らしいですね。『繁栄の昭和』、あれを拝見しながら、昔の短篇、それもいわゆる純文学じゃない、「新青年」のような昭和初期のモダンの雑誌に出ていた短篇を思いだしまして、文章がとてもきちんと整つていて、瀟洒な短篇だと感じました。とにかくどどん、どどん休むことなく領域を拡げてこられた。最後の長篇などと言わず、まだあと三つぐらいは長篇を書いていただきたいです。

筒井▼わあ。今、アイデアが何もなくて。菅野▼日本文学の窮状を救うために、ぜひお書きになつていただきたいと思います。

筒井▼ありがとうございます。でも、個人の名前を冠した「筒井康隆展」なんて開かれたらもう、あとは何もしないほうが良いのではないのでしょうかね（笑）。

菅野▼そんなことはありません。ますますすぐ健康に気をつけられて、新作を期待しています。

菅野▼日本文学の窮状を救うために、ぜひお書きになつていただきたいと思います。

筒井▼ありがとうございます。でも、個人の名前を冠した「筒井康隆展」なんて開かれたらもう、あとは何もしないほうが良いのではないのでしょうかね（笑）。

菅野▼そんなことはありません。ますますすぐ健康に気をつけられて、新作を期待しています。

（2018年9月18日
東京・筒井康隆邸にて）



菅野▼本当にそうですね。オデッセーです。書き応えがおりになったでしょう。

筒井▼この作品で、最初の大きな賞、谷崎潤一郎賞を頂きました。私の自慢は、その時の谷崎賞の選考委員が最高の人たちで、今でもあの時期に頂けて本当に良かったなと思つています。その人たちが推薦してくださつたわけで、若い頃から大江健三郎、丸谷才一、吉行淳之介、遠藤周作、それから丹羽文雄も。この賞を頂いて、一応ちゃんと文学もできるやつだということを認めていただいたように思います。

菅野▼それから、『聖痕』は今から3年ぐらい前になりますか。あれは東京大学を舞台の一つにして。

筒井▼ああいう難しい、食品を扱つて化学的に分析する学科があるかと調べたら、東大にしか

資料受贈報告

2018年6月23日～10月11日

▼秋田総線 阿部弘様 石川友也様 稲垣信子様
おかの蓉子様 尾崎左永子様 小林良作様 高橋悦男様 谷川理美子様 松平盟子様 松本徹様 湯澤規子様

▼志賀直吉様 志賀直哉著作権管理代表者志賀道哉様

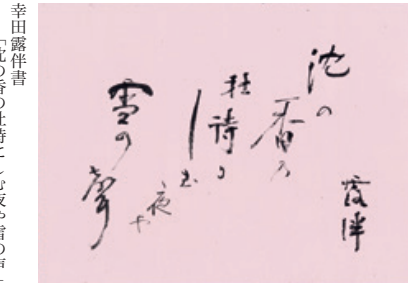
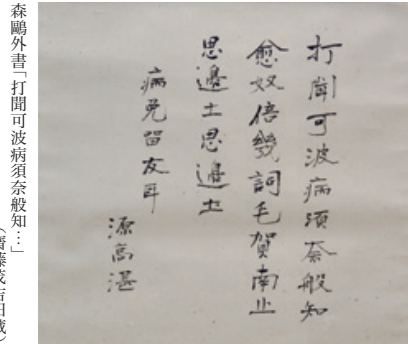
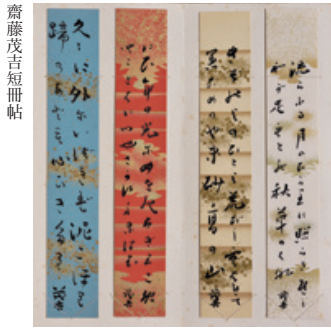
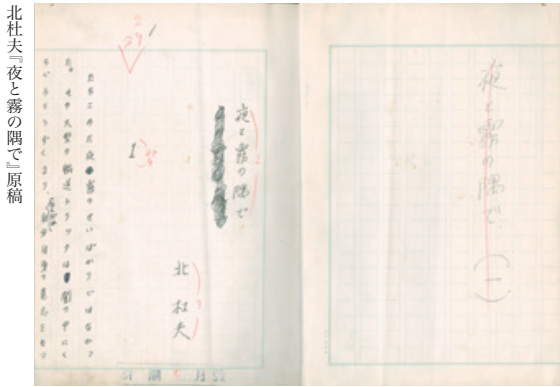
▼朝倉書店 射水市大島絵本館 神奈川近代文学館 紙の博物館 川崎市大山街道ふるさと館 菊池寛記念館 現代文学史研究所 高知県立文学館 国文学研究資料館 国民みらい出版 国立国会図書館国際子ども図書館 小諸市教育委員会 さいたま文学館 サトエ記念21世紀美術館 館林市教育委員会 田原市博物館 都留市博物館 鶴書院 東京子ども図書館 東京都江戸東京博物館 徳島県立文学書道館 中原中也記念館 日本現代詩歌文学館 沼津市芹沢光治良記念館 ふくい風花随筆文学賞実行委員会事務局 ふくやま文学館 松本清張記念館 松山市立子規記念博物館 神の分教場保存会 壺井栄文学館 水と緑と詩のまち前橋文学館 宮沢賢治学会イーハトーブセンター 明治学院大学図書館 やまなし文学賞実行委員会事務局

▼「海」「海紅」「風」「かねこと」「カプリチオ」「経堂雑記」「くさくさ」「九品仏川柳会句会報」「鴻」「香蘭」「心の花」「さつき」「山暦」「鹿首」「正午の会」「抒情文芸」「詩霊」「川柳研究」「巖」「短歌人」「地中海」「白」「羽鳥通信」「ブチ★モンド」「文藝軌道」「文章歩道」「窓」「ゆく春」「ランブル」「りんごの木」

（五十音順 団体名敬称略）

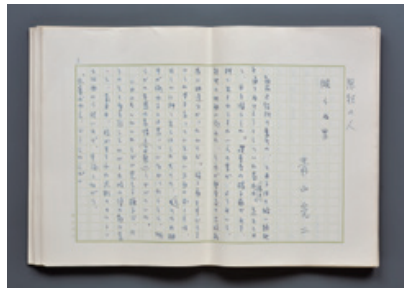
◎北杜夫旧蔵資料◎

寄贈者：齋藤喜美子様
寄贈品：北杜夫原稿『夜と霧の間で』、『輝ける碧き空の下で』、北杜夫創作ノート、齋藤茂吉歌集稿本『遠遊』、『遍歴』、『ともしび』、『たかはら』、『連山』、『白桃』、『暁紅』抄、『霜』抄（題箋『とろき』）、齋藤茂吉書画・短冊帖、齋藤茂吉旧蔵の諸家の書・短冊帖など（972点）

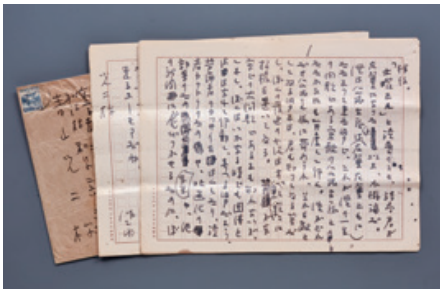
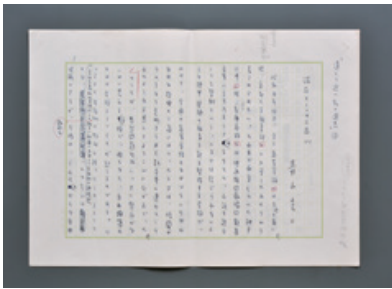


◎青山光二旧蔵資料◎

寄贈者：茉莉デビイ様
寄贈品：青山光二原稿『われらが風狂の師』、『わが文学放浪』、『美よ永遠に Keats, my genius』、織田作之助 青山光二あて書簡など（130点）



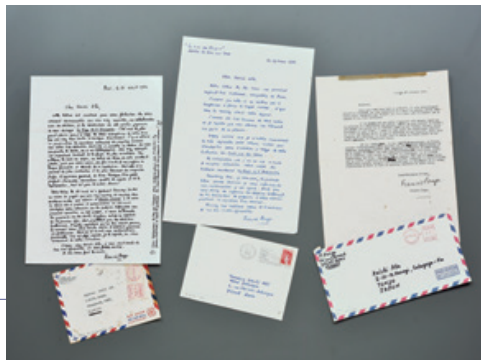
「風狂の人 眠らぬ男」(『われらが風狂の師』所収)原稿 「遠くて近い私の過去」(『わが文学放浪』所収)原稿



織田作之助 青山光二宛書簡 1946年頃

◎阿部弘一、フランシス・ボンジュ関連資料◎

寄贈者：阿部弘一様
寄贈品：フランシス・ボンジュ著書・翻訳書、阿部弘一あて書簡7通など（43点）



[右]
フランシス・ボンジュ
阿部弘一宛書簡から（右から）
1964/11/27、
1978/3/29、
1980/4/21

[左]
フランシス・ボンジュ 阿部弘一・訳
『表現の炎』(1980)、
『フランシス・ボンジュ詩選』(1982)、
『物の味方』(1984)

2017（平成29）年度の収蔵品について

昨年度に収集した収蔵品1145点は、皆様からのご寄贈によるものです。ご協力に感謝申し上げます。（敬称略 順不同）



新高恵子自作のスクラップブック
演劇実験室「天井桟敷」の活動記録を10冊（1967～81年）にまとめたもの。



左より、映画台本『ボクサー』(1997年・東映)、『幻想舞台写真帖 天井桟敷の人々』、『対談 四角いジャングル』、『十九歳のブルース』
台本『ボクサー』では、主人公のライバルのトレーナーが〈矢吹〉、近所の食堂が〈涙橋食堂〉(あしたのジョーでは、泪橋)、食堂に集う常連客のひとりが〈古着屋のジョー〉と設定され、本作が漫画『あしたのジョー』へのオマージュであることが推察される。

「この作品の影響力というか、漫画が人々に与える影響の重さについてつくづく考えさせられました。（中略）子供が読むものなので、そういう無垢な人、純粋な人が読むってことは、それを読んだことによって、その人の人生が変わるかもしれないし、凄影響を与えてしまうかもしれない。そんなことを梶原さんとも話しました。そしてそういう人たちが、自分の友達や兄貴分が死んだぐらいの感覚で読んでくれたことがわかった時に、本当に責任を感じたんです。」(ちばてつや)

「『ちばてつやとジョーの闘いと青春の1954日』
ちばてつや・豊福きこう 講談社刊より」

フィクションの世界にいた力石の葬儀を行い、虚構を現実の世界に持ち込んだ寺山の演劇的手法

産経新聞(大阪)1970年3月30日
他に、下記15枚が保存されていた。
(全て1970年発行)

朝日新聞(東京)3.25/毎日新聞(東京)同日/東京中日新聞(東京)同日/産経新聞(東京)同日/報知新聞(東京)同日/サンケイスポーツ新聞(東京)同日/産経新聞(東京)3.26/東京スポーツニッポン3.27/毎日新聞(名古屋)3.28/産経新聞(大阪)3.30/秋田魁新報(秋田)4.2/名古屋タイムズ(愛知)4.3/中国新聞(広島)4.5/京都新聞(京都)4.7/読売新聞(大阪)4.27



新高恵子寄贈資料

—「ボクシングは、血と涙のブルースだ」寺山修司—

文学とスポーツ
来たる東京2020大会、世田谷区内では馬術競技開催や米国選手団のキャンプ実施が決まりました。ところで、最初に米国で開催されたオリンピック(1904年セントルイス)以来、ほぼ全ての夏季大会で認定されてきた競技にボクシングがあります。拳闘は三島由紀夫や寺山修司に始まり、現代では沢木耕太郎や角田光代など多くの作家に愛され、その作品に描かれています。とりわけ寺山は、自ら競走馬の馬主になり、映画『ボクサー』の脚本監督を手掛けるなど、スポーツに精通した作家の1人と言えましょう。

寺山はマルクリエターとして多くの肩書を持ちますが、映画や演劇へと活動の主軸を移す直前は、世田谷に在住し(1965)68年・区内下馬、数々の文学作品を生み出しました。ボクシングをテーマにした唯一の長編小説『あゝ荒野』の連載開始や、詩論『戦後詩』と第3歌集『田園に死す』、自叙伝『誰か故郷を想はざる』や『書を捨てよ、町へ出よう』などの代表作はこの時期に刊行されました。同時に、演劇実験室「天井桟敷」を設立するなど、劇作家としての活動を開始した時期でもあったのです。

新高恵子寄贈資料について

新高恵子さんは、寺山劇団の看板女優として、多くの演劇・映画作品に出演されました。そして1983年、女優として寺山の死に殉じ、舞台上に立つことはなくなりました。

当館では97年、新高さんから自作のスクラップブックや台本など、「天井桟敷」関連資料190点をご寄贈いただきました。これらの資料は「寺山修司の青春時代展(2003年)」と「帰ってきた寺山修司展(2013年)」で公開し話題とな

当館収蔵品のご紹介 62

寺山修司と世田谷

りましたが、今回はその中から、ボクシングに関する資料をご紹介します。

『あしたのジョー』―力石徹の告別式―

スクラップブックには、新聞や雑誌の切り抜き、パンフレットやチケットの半券に至るまで、劇団に関する様々な資料が貼り付けられています。その1頁に、クリップ止めされた新聞切り抜きが保存されていました。「ファンが盛大な葬儀」の見出しで始まる新聞記事は、力石徹(漫画『あしたのジョー』の登場人物)の葬儀を伝えたものです。葬儀は1970年3月24日、「天井桟敷」等の劇団員により行われました。漫画家と原作者(ちばてつや、高森朝雄)梶原一騎両氏が参列し、小学生から社会人まで800名以上の弔問客が集まったといいます。寺山の弔辞を劇団メンバーが代読し、10点鐘(テン・カウントおよび黙禱)、俳優・尾藤イサオとボクサー・太田昭夫による追悼試合、アニメ『あしたのジョー』主題歌披露、劇団員らによるパフォーマンス、ちば 梶原両氏による対談など、本邦初のアニメキャラクターの告別式が盛大に執り行われたのです。

は成功し、告別式は多くのマスコミに取り上げられました。現実と虚構の狭間を自由に行き来することができた寺山と、漫画に対して実直に向き合うちばと梶原。1960～70年代の歴史に刻まれた、この奇跡の出来事は、彼らの存在抜きに語ることは出来ません。



演劇実験室「天井桟敷」ニュース10号(1970年4月15日発行)より
「戦後史に残る告別式」と題し、同劇団が主宰した葬儀の模様を伝えている。(総指揮:寺山修司、演出・構成:東由多加、会場:講談社・講堂)



《アリス》2010年



《くまのたまご》2016年

『ふたりのねこ』
原画 2014年

《ギュスターヴ若冲雄鶏図》2016年



《双子》2018年



ヒグチユウコ展 CIRCUS [サーカス]

2019年1月19日(土)～3月31日(日)

空想と現実を行き交う自由な発想とタッチで、作品制作のみならず

絵本の刊行など幅広い活躍をみせる画家ヒグチユウコ。

本展では、自身初となる大規模個展として、

約20年の画業の中で描かれた

400点以上(予定)の作品を公開します。

ヒグチユウコが描く猫や少女、キノコ、この世ならぬ

不思議ないきものたちが繰り広げる、楽しくもどこか切ない

サーカス(CIRCUS)の世界をお楽しみください。

関連イベント

① ナイトミュージアム

2月2日(土)・16日(土) 18時～19時30分
閉館後の展示室でサーカスのメロディーとダンスをお楽しみください。

[出演] 黒色すみれ(歌手)、史杞穂(ダンサー)
[会場] 2階展示室 [参加費] 2000円 [定員] 各日80名 [チケット] 完全前売制。1月19日よりローソンチケットで販売。

② バルーンアート・ワークショップ

3月3日(日) 13時～16時
バルーンパフォーマンスやオリジナルのバルーン作りをお楽しみください。

[出演] コンフェッティバルーン Hara Harari
[会場] 1階文学サロン [対象] 中学生以下
[参加費] 無料 [定員] 30分毎に各回当日先着10～20名

③ 黒色すみれとヒグチユウコのサーカス・ナイト

3月16日(土) 18時～19時30分
ネオクラシック女性デュオ「黒色すみれ」のコンサートと展覧会を両方楽しめる特別な一夜。ヒグチユウコのライブドローイング中継も同時開催。

[出演] 黒色すみれ 口上: 佐藤泉
[会場] 1階文学サロン・2階展示室 [参加費] 2000円 [定員] 200名 [チケット] 完全前売制。2月16日よりローソンチケットで販売。

* ①③のチケットは完全前売制です。ローソンチケットで販売(☎0570-000-777/Lコード: 34408/当館では取り扱っておりません)

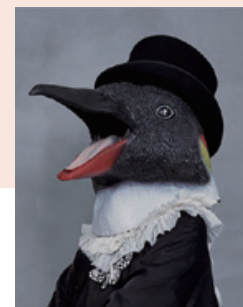
★ 託児サービス(事前申込制・有料)★

2月8日(金)、3月8日(金) 13時～16時
イベント託児 @マザーズ ☎0120-788-222
(平日=10時～12時、13時～17時)

観覧料: 一般800(640)円、65歳以上・高校・大学生600(480)円、
障害者手帳をお持ちの方400(320)円

※()内は20名以上の団体料金 ※中学生以下無料 ※1月25日(金)は65歳以上無料 ※12月18日よりローソンチケットで前売券を発売(全国ローソン・ミニストップ/☎0570-000-777/Lコード: 34408/当館では取り扱っておりません)

主催=公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館、朝日新聞社
協賛=東邦ホールディングス株式会社、株式会社ウテナ
後援=世田谷区、世田谷区教育委員会
特別協力=グラフィック社
協力=白泉社、祥伝社、プロンズ新社、講談社 (順不同)



撮影: 井上佐由紀

ヒグチユウコ

画家・絵本作家。東京都在住。東京を中心に定期的に作品を発表。近作は『いないねこ』(白泉社)、『型抜き POSTCARD BOOK』(グラフィック社)。ほかにも、『せかいいちのねこ』(白泉社)、『ふたりのねこ』(祥伝社)、『ギュスターヴくん』(白泉社)、『ヒグチユウコ作品集』(グラフィック社)、『BABEL Higuchi Yuko Artworks』(グラフィック社)など多数の著書を出版。

IPM活動報告

オナガのバックヤードツアー

—— どうも、こんにちは。あなたがオナガさんですね。今日は、セタブンの裏側をご覧になりたいとの旨をお伺いしています。

ゲーイ、キュイキュイ

—— その鳴き声、出勤のときに聞こえてくることがありますよ。何というか、独特なのですね。わかる感じですか。オナガは世田谷区のシンボル・バードでものね。あなたのように、当館の活動に興味を持ってくれる方……鳥がいるのは嬉しいですよ。

—— よろしく頼むよ。今日はね、展示室でみたりする展示品が、普段はどういうところにあるのかに興味があるんだ。キュイキュイ

—— さあ、着きましたよ。ここは収蔵庫と呼ばれる部屋の前です。作品や資料をしまうための専門の部屋です。

ゲーイ、頑丈そうな扉だな。

—— 収蔵庫の扉は二重構造になっています。この外側の扉は、まるで大きな金庫のようですね。じゃあ扉を開けます。すると今度は、メッシュ状の扉があらわれます。

—— ここにも鍵穴があるぞ。

—— はい。収蔵庫にはこの二重構造の扉だけでなく、ほかにも扉があるんです。すべての扉に別々の鍵がついているので、一番奥の部屋に入るには何個かの鍵を使います。じつは私も、たまにうっかり鍵を間違えることがあります。

何だか、まもられている感じがすごいな。

—— 大切な作品や資料をしまう場所ですからね。収蔵庫を縦に切ってみると、建物の躯体の内側に、入れ子のように収蔵庫の部屋が入っているのがわかります。収蔵庫の壁はコンクリートの一次壁、外からの影響を遮断しつつ断熱と調湿ができる二次壁があつて、さらに二次壁と二次壁の間には空気層があります。このように、何重にもなつた構造で庫内のセキユリティーや耐火性を高め、温湿度を一定に保ちます。素材

によりますが、作品や資料を保存するのに理想的な温湿度のバランスがありまして。

—— そういえば、展示室のなかで、部屋の空気が外と違うように思うときがあるぞ。あれは作品をまもるためだったんだ。キュイキュイ

—— さすが、いろいろ敏感でいらつしやいますね。おそらく展示室で、照明が暗いと感じたこともあるでしょうが、それも作品などをまもるためです。ついでにいいますと、日本は高温多湿な環境なので、カビや虫による生物被害にも気を配る必要があります。さきほど収蔵庫の扉を開けたときに、メッシュ状の扉を見ましたね。あれは、埃や虫の侵入を防ぐためでもあります。

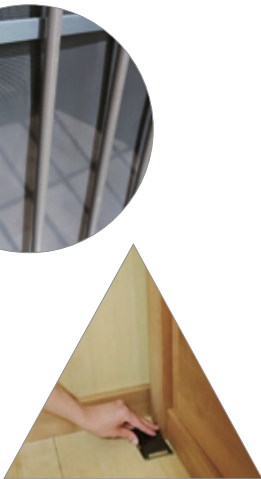
ゲーイ、世の中には、木とか紙とか布を食べる虫もいるよね。ボクとは好みが違うみたいだけど、そういうものここにはいるのかな。

—— 収蔵庫にしまつてある原稿用紙や本、絵画などは紙や布が素材なので、いてもらつては困ります。だから、いないように管理します。

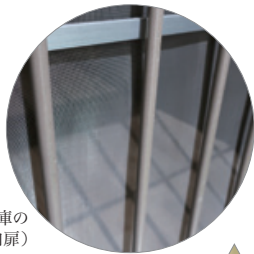
でもさ、ボクが普通に外にいるとね、いろいろな虫に会うけどね。キュイキュイ

—— そうでしょうね。土があつて緑があつて、オナガもいるような環境ですからね。私たちも自然に囲まれて、気持ち良く過ごしています。ポイントは、作品や資料のある場所になければ良いのです。収蔵庫や展示室は、定期的に行う環境調査で状態をチェックして、必要があれば殺菌・殺虫処理をします。最近では文化財IPM〔註〕といつて、複数の目による複数の方法でもつて複合的に、作品や資料にふさわしい環境を維持していこう、という考え方ができました。そうなる環境調査も全館的に行います。ゲーイ……全体を調べるんだ。

—— 環境調査では空気環境、カビや虫、特に紙や布なんかを食害する文化財害虫の発生状況などを調査します。虫については補虫トラップを使つて調査します。文化財IPMでは、館全体がどのような環境・状況なのかを把握し、館の環境の個性を知ります。その上で、いかに収蔵庫と展示室に害となる要素を近づけないかの対策を考えていきます。つまり、文化財にとつ



環境調査のための補虫トラップ



収蔵庫の二重扉（内扉）



緑豊かな周辺環境

て有害な生物被害を防ぐための、予防策を考えながら実践するといえれば良いかと思います。何か、漠然とした話みたいにならぬかな。

—— そうですね。確固たる正解がひとつあるのではなく、ケースバイケースの対応になりますし、結果もすぐには見えにくいですが。私たちも専門機関のアドバイスを受けながら、手さぐりで試しているような感じです。ところで実際に始めてみて、予想外に良かったことがありました。へえ、どんなことかな。

—— 文化財IPMはひとりでは出来ませんし、それではいけないので、当事者意識を多くの人に持つてもらいます。講じる対策も、学芸部だけで行えないことが出てきます。だから総務・施設管理・技術・清掃と、当館のさまざまな部署が関わつて進める一種のムーブメントとしても考えることができるのかなと思います。……あれ、そろそろお帰りの時間ではありませんか？

ゲーイ、そうだった。今日はなかなか楽しかったな。今度、外で文化財害虫を見つけたらやつつけておくからね。

—— いえいえ、それには及びません。館内で大量に発生しなければ良いので。環境との調和です。お互い上手く共存していきましょう。

ゲーイ、キュイキュイ

〔註〕文化財IPM(Integrated Pest Management)総合的有害生物管理。文化財に有害な生物被害を防ぐための保存環境を整えること。日常管理から空気環境の整備、有事の対処法まで範囲は多岐にわたる。

職場体験活動報告

中学生学芸員115名の活躍！—— 職場体験のご報告 ——

当館では、平成18年度から区立中学校の「職場体験」プログラムに参加しています。13年間欠かすことなく受け入れを続け、区内11校から参加した115名(平成30年10月末現在)が巣立っていきました。この度、100名を超えた節目を記念し、ご報告をさせていただきます。

職場体験の内容

学芸員は、数ある博物館の仕事の中でも、「調査研究」「資料収集・保管」「展示」「教育普及」という企画運営の業務を担う職種です。そして、その資格取得のためには、実地研修(博物館学芸員実習)をする必要があります。当館の職場体験は、大学生の実習生に行うプログラム「学芸員実習」をベースとして、中学生向けにアレンジしたものです。作業内容は、施設見学や資料の整理、展示や催事の手伝い、そして受付での接客体験まで多岐に亘ります。近年では、展示資料の解説文作成(感想文ですが……)や消防訓練、大学生との共同実習など体験の範囲を広げています。

中学生との特別な時間

中学生との職場体験は、私たちにとっても特別なものです。1人ひとりの出会いには、それぞれの物語がありますが、今回1つご紹介させていただきます。それは、中学生男子2人との思い出です。通常、職場体験は第2学年の生徒さんが3日間かけて参加するのですが、その時は特別支援学級の3年生が2日間参加してくれました。先生との事前打ち合わせでは、学校生活における日常の様子や、得手不得手や注意事項を伺い、なるべく複雑な作業を避けることになりました。

施設見学や受付体験の他、館の「子ども向け事業報告書」の発送準備をしてもらいました。作業内容は、記録DVD500枚を、報告書の見返しにテープで貼り付けるものです。初日の振り返りで

展示会のご案内

第37回 世田谷区内在住書家による 世田谷の書展

—— 世田谷ゆかりの作家たち ——

2019年1月8日(火) — 14日(月・祝)

1階文学サロン 観覧料〃無料

区内在住の日本を代表する書家の新作を、会派を超えて一堂にご覧いただく、またとない機会です。墨の芸術と世田谷ゆかりの作家たちの言葉が融合する世界をご堪能ください。

【出品予定書家】

(五十音順、敬称略)

荒谷 大丘	久村 拓司	豊田 一穂
安東 麟	小久保 展代	永井 閑翠
池亀 壽泉	後藤 俊秋	野口 泰雲
石川 昌亭	齊藤 洪生	野口 白雲
稲村 龍谷	榑 菖扇	橋 久美子
上田 南郷	師田 久子	服部 保竹
白倉 仔龍	鈴木 暁山	深田 東穂
卯中 恵美子	竹内 青紗	丸尾 謙使
太川 啓子	田中 栄子	安岡 田鶴子
大根田 照雲	津田 嘉泉	米田 洋子
川口 青澄	坪西 美枝	渡邊 鄧美子

関連イベント「鑑賞講座」

申込不要

■1月9日(水) 稲村 龍谷(日展会友)
■1月12日(土) 池亀 壽泉(読売書法会理事)
■1月14日(月・祝) 川口 青澄(読売書法会参与)
各日14時〜15時、当日会場にお越しください。



2018年開催時の様子

は、単純作業が続くと緊張感が薄れ、効率が落ちてミスしてしまうとの感想が聞かれました。そこで2日目は敢えて、作業中に楽しく会話するのを止めて、次の3つをルールとし、実験をしてみました。

① 黙って作業する。

② 作業しなくてはならない製品を目の前に山積みせず、渡される10枚毎を処理する。そして毎回、時間を計測して作業に集中する。

③ これを繰り返すのだが、ただし、これまでの作業方法でなくとも、自分で良いアイデアが思いついたらその方法を使つてもよい。

というものです。きつと、小さな成功体験を繰り返せば、1回毎の作業時間は短くなるだろう、という心づもりでした。作業を開始し、先に10枚をクリアーしたのはB君でした。いつも作業中に空を眺め、「今日は天気予報で午後から雨つて言ったけれど、〇〇君は傘を持ってでかけたかな？」等、心ここに有らずの発言を繰り返す彼が、「はい、出来ました。次のDVD下さい」。確かに2人は回を重ねる毎に、作業時間を短縮することが出来ました。

そして、実験を終えようとした時です。「はい、出来ました。次をやらずに、A君を手伝ってもいいですか？」……。B君はルールの3番目、自分で最も良い方法を考えたのです。2人は、効率性を重視した「仕事」を、「思いやり」の時間へと昇華させたのです。目の前には、机とDVDと両面テープ。ただ、テープを貼るという行為の中に、人の本質が問われる時間が流れていたのです。

「実験して、ごめんね。次は昨日みたいに、楽しくおしゃべりしながら一緒にやろうね」「うん。今日もね、午後から、時雨だつて、××君大丈夫かな？」

その後、会話を楽しみながらも作業効率は上がり、当初目標の500点の作業を完了することが出来ました。

私は空を見上げると、いつも2人の笑顔を思い出します。



左から林英美子「コンチクショウ手帖」、筒井康隆展オリジナル「マルチペーパー」と「しおり」

企画展



筒井康隆展

開催中～12月9日(日)
2階展示室

観覧料:
一般 800(640)円
高校・大学生・65歳以上 600(480)円
小・中学生 300(240)円
障害者手帳をお持ちの方 400(320)円
*()内は20名以上の団体料金



第37回 世田谷の書展
世田谷ゆかりの作家たち

2019年1月8日(火)
～14日(月・祝)

1階文学サロン 観覧料: 無料

ヒグチユウコ展
CIRCUS[サーカス]

2019年1月19日(土)
～3月31日(日)

2階展示室

観覧料:
一般 800(640)円
高校・大学生・65歳以上 600(480)円
障害者手帳をお持ちの方 400(320)円
*()内は20名以上の団体料金
*中学生以下無料
*1月25日(金)は65歳以上無料



《くまのたまご》2017年

企画展	筒井康隆展 開催中～12月9日(日)	第37回 世田谷の書展 2019年1月8日(火)～14日(月・祝)	ヒグチユウコ展 CIRCUS[サーカス] 2019年1月19日(土)～3月31日(日)	
12月	＜休館＞	2019年1月	2月	3月
コレクション展	後期 蘆花生誕150年 徳富蘆花と鳥山ゆかりの文学者たち 開催中～2019年3月31日(日)			

コレクション展

後期 蘆花生誕150年
徳富蘆花と鳥山ゆかりの文学者たち

開催中～2019年3月31日(日)

1階展示室



観覧料:
一般 200(160)円
高校・大学生 150(120)円、
小・中学生、
65歳以上・
障害者手帳をお持ちの方 100(80)円
*()内は20名以上の団体料金
*土・日・祝日は小・中学生無料
*1月25日(金)は65歳以上無料

せたがや文化財団の催し物

- 世田谷美術館 [Tel. 03-3415-6011]
- ブルーノ・ムナリー
— 役に立たない機械をつくった男
開催中～2019年1月27日(日)



ブルーノ・ムナリー《読めない本の試作》1955年 パルマ大学CSAC
© Bruno Munari. All rights reserved to Maurizio Corraini srl. Courtesy by Alberto Munari

- 田沼武能写真展
東京わが残像 1948～1964
2019年2月9日(土)～4月14日(日)
- 世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ展
[Tel. 03-5450-9581]
- 向井潤吉 民家の旅 風土のかたちを求めて
開催中～2019年3月17日(日)
- 世田谷美術館分館
清川泰次記念ギャラリー
[Tel. 03-3416-1202]
- 清川泰次 昭和の学生旅行
開催中～2019年3月17日(日)
- 世田谷美術館分館
宮本三郎記念美術館
[Tel. 03-5483-3836]
- 宮本三郎 装飾性の展開
開催中～2019年3月17日(日)
- 世田谷文化生活情報センター
世田谷パブリックシアター
[Tel. 03-5432-1515]
- 世田谷パブリックシアター×パソナグループ
『CHIMERICA チャイメリカ』
2019年2月6日(水)～2月24日(日)
会場: 世田谷パブリックシアター

作: ルーシー・カークウッド
Chimerica by Lucy Kirkwood
演出: 栗山民也
翻訳: 小田島則子
出演: 田中 圭、満島真之介 ほか



撮影: 笠井爾示

- 『熱帯樹』
2019年2月17日(日)～3月8日(金)
作: 三島由紀夫
演出: 小川絵梨子
出演: 林 遣都 岡本 玲 栗田桃子
鶴見辰吾 中嶋朋子
- 世田谷文化生活情報センター
生活工房 [Tel. 03-5432-1543]
- 眞田岳彦ディレクション
祝いの衣服 赤をめぐる旅展 vol.3
「文様を訪ねて」
12月19日(水)～
2019年1月20日(日)
会場: 生活工房ギャラリー /
ワークショップルーム AB
- 「新雪の時代
— 江別市世田谷の
暮らしと文化」展
2019年1月26日(土)～3月10日(日)
会場: 生活工房ギャラリー
- 世田谷文化生活情報センター
音楽事業部 [Tel. 03-5432-1535]
- Atelier YOSHINO Presents
NEW YEAR CONCERT 2019
宮川彬良 バレエの世界
2019年1月13日(日) 16時
会場: 昭和女子大学人見記念講堂



「文様を訪ねて」展
制作風景

開館時間: 10時～18時(観覧会入場は17時30分まで)
休 館 日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合には開館し、翌平日休館)



アクセス: 京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分
小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)
「芦花恒春園」下車徒歩5分

公益財団法人せたがや文化財団

世田谷文学館 SETAGAYA LITERARY MUSEUM

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10
Tel. 03-5374-9111 Fax. 03-5374-9120
ホームページ <https://www.setabun.or.jp/>

